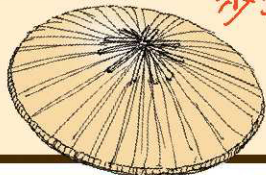


お伊勢参りの旅支度  
街道が交差する町を  
歩こう!

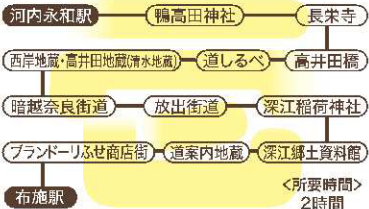


東大阪散策MAP

古地図研究家・本渡章さんと  
「河内名所図会」を歩く

街道が  
交差する町

コース① 河内永和～布施



新しいあきた  
東大阪

河内永和駅のある町名「永和」。明治6年(1873)に発足した永和村の読み方は「ながにむら」でした。江戸時代の大和川付け替え工事の後、旧大和川(久宝寺川)流域の荒川村に新たな土地ができ、開発が進みます。やがて荒川村の三ノ瀬・長堂・横沼という地域が新しい村として独立を望み、幕府に願いを出すも認められず。明治維新で世が変わり念願がかなった時、村は「永く平和に」の気持をこめて、「ながにむら」と名づけられたのです。明治22年(1889)に永和村をはじめ6つもの村が合併して大きな布施村ができ、その大字となった永和は「えいわ」と読まれるようになりました。ゴールとなる布施駅前賑やかさは、かつて街道筋の交差点だったと知れば納得。町の歴史や人々の暮らしに思いをこめて歩いてみましょう。

**1 鴨高田神社**  
白鳳2年(673)の創建。「河内名所図会」にも紹介されている鴨高田神社は長栄寺の境内で、村の産土神(うぶすまのみ)と書かれており土地の守り神。神仏と近い所に入々の営みがあった時代の風景だ。「鴨」の字がつくのは祭神のひとつが大鴨命(おおかもつみのみこと)で、この神が鴨氏の祖で賀茂一族のルーツだからと思われ。本殿の右奥、石灯籠が並ぶ参道を抜けると長栄寺の山門はすぐだ。

真砂町では伝統工芸の外装や宮装について、懇切丁寧なガイドをしなくれる  
平日 9:30~12:00 13:00~16:30  
土日 9:30~12:00 14:00~16:30



深江郷土資料館 10  
深江稲荷神社 11

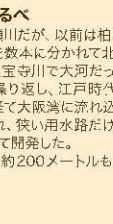


12 祀道案内地蔵

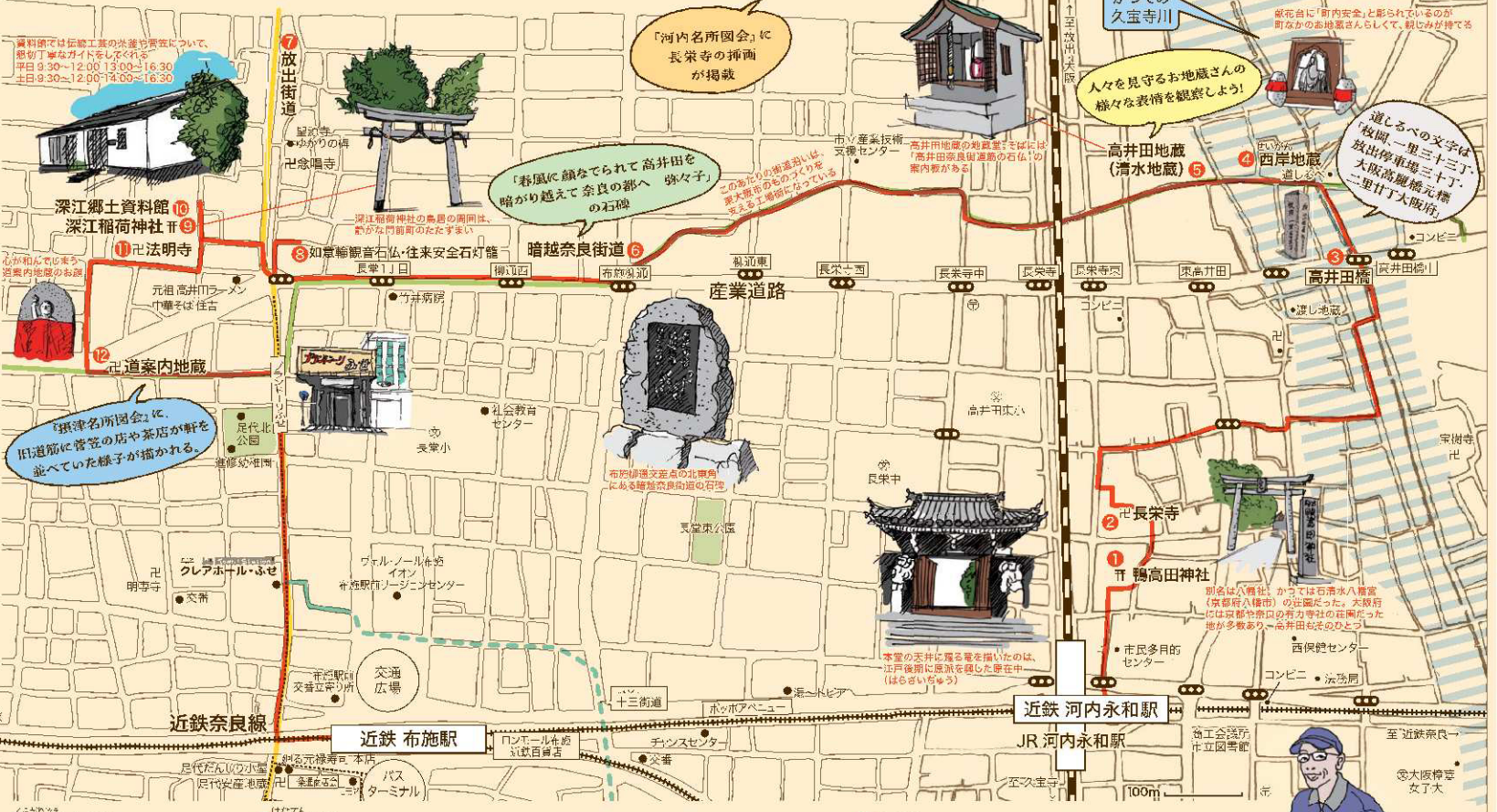
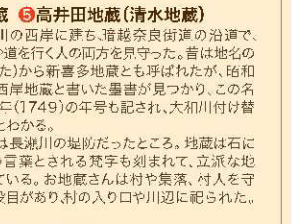
**2 長栄寺**  
聖徳太子の創建と伝える古寺で、太子が彫ったとされる十一面観音像が不尋常。後にさびれていたが、江戸時代の名僧・慧雲(じょうん)により復興した。碑を守っていた慧雲の御堂だった禪那台の遺構が本堂の裏に建つ。慧雲の死後、生駒山にあった禅那台が長栄寺に移築。宗派にこだわらないスケールの大きな僧で数々の大業を残した慧雲は晩年、仏教・儒教・神道を融合した独自の密教神道をひらき、後世に禪雲尊者と呼ばれた。本堂の天井に躍る竜を抱いたのは江戸後期の絵師・原在中。天女、花鳥など竜のまわりの絵の彩色が美しい。



**3 高井田橋/道しるべ**  
今は小さな流れの長瀬川だが、以前は柏原市の安堂付近から河内野野を数本に分かれて北流していた旧大和川の主流・久宝寺川で大河だった。大雨が降るたびに洪水を繰り返して、江戸時代中期、安堂付近から堺方面を経て大阪湾に流れ込むように付け替え工事が行われ、狭い用水路だけを残して周辺の川床を削り上げて開発した。大和川付け替え前の、約200メートルもの川幅を想像しながら歩こう。



**4 西岸地蔵 5 高井田地蔵(清水地蔵)**  
前者は長瀬川の西岸に建ち、道越奈良街道の沿道で、船で来る人や道を行く人の四方を京守った。昔は地名の新喜多(しぎた)から新喜多地蔵とも呼ばれたが、昭和の改修時に西岸地蔵と書いた墨書が見つかり、この名前に。寛永2年(1749)の年号も記され、大和川付け替え後の建立とわかる。後者の場所は長瀬川の堤防だったところ。地蔵は石に彫られ、仏の言葉とされる梵字も刻まれて、立派な地蔵堂となっている。お地蔵さんは村や集落、村人を守る守り神の役目があり、村の入り口や川辺に祀られた。



**6 暗越奈良街道**  
東大阪の主な街道は古代から中世にかけて、大坂や奈良、京都や紀州(和歌山)に通じる道として整備され、江戸時代に宿場も開かれて発展した歴史がある。なかでも「暗越奈良街道」は起点の玉造二軒茶屋から生駒山の暗峠を越えて、終点の奈良三条へ通じる街道で、大坂と奈良を結ぶ最短のコースとして賑わった(八里八町/約34km)。道は奈良からさらに伊勢神宮へと続き、江戸時代の深江では、名産の音吉を運送し、お伊勢参りの旅に出る人や、見送る人の姿がなじみの風景になった。

**7 放出街道**  
ブランドリーふせ商店街のアーケードの道はかつての放出街道と重なり、東大阪市を出ると大原市街で放出を抜け、守口市で京街道と交わった。その先は伏見・京府。  
途中で放出を巡るので放出街道なのだが草薙剣くさなぎのつるぎ)にまつわる伝承で知られる八剣(やつるぎ)神社(阿運雄雄=あははや=神礼)の奉詣路でもあり、現在も講物工場が多く、別名講物御前(みおや)神社とよばれる。音吉のゆかりの地。

**8 如意輪観音石仏・往来安全石灯籠**  
半加思惟の観音像で、台石には明和2年(1765)の銘が、観音堂の前には明和7年(1874)の建立で、

「往来安全 右なら左大阪」と刻まれた道標があり、どちらも元は暗越奈良街道沿いにあった。

**9 深江稲荷神社**  
深江村の氏神で、祭神は稲荷大神(いなりおおかみ)、笠縫(かさぬい)大神、鏡作(かがみづくり)大神。江戸時代の文獻にも足代鏡物師(いもじ)が名を残し、現在も講物工場が多く、別名講物御前(みおや)神社とよばれる。音吉のゆかりの地。

**10 深江郷土資料館**  
平成22年(2010)に開館し、地域の人々たちによって建設・運営。茶湯庵の人間国宝・角谷一幸(かくた いっけい)さんの作品や音吉などに関する作品や資料が展示され、敷地の一角に音吉が祀られている。

**11 法明寺**  
鴨高田神社の境内の一角に祀られている法明上人が創建。上人の名は、東大阪市長塚深基にあり、市の文化財に指定されている。

**12 道案内地蔵**  
暗越奈良街道から深江の法明寺への参道の由がりに角にあったお地蔵さん。地蔵堂前の石壁には「難道大念御宗中興法明上人入蹟 深江村 法明寺」と刻まれ、江戸時代に建ったのがわかる。  
布施駅前には上下阪・若江南から八高市を経て、生駒山系の十三峠を越え、斑鳩町に至る十三街道も通じている。ブランドリーふせの沿道に「街の創」のクリアホールふせがあり、コンサートや在布プロレスなど多彩な催しで街を盛り上げる。旧街道は人の交差点でもある。

**本渡章(ほんどあきら)**  
作家・古地図コレクター、編集者などを経て文筆業に、1996年、第3回バスカル短編文学新人賞受賞受賞。著書「大阪古地図パノラマ」『古地図でたどる 大阪24区の歴史』(以上、140頁)や『古地図が語る大災害』(創元社)など。他に各地の「名所むかし案内」シリーズなど多数。講演、まち歩きツアー、自ら所蔵する古地図を公開するサロンなどの活動も行っている。  
監修/本渡章 イラスト/デザイン/神谷利男 編集/株式会社140B 発行/東大阪観光協会 2024年2月